

成政黨を淨化することも、倫理化運動

の一つであると言ふであらう、併しな

がら提携乃至合同が反倫理的的目的に在

る以上、既成政黨の不淨化を策したと

言つて可、是等の矛盾した行動を絶滅

するのが政治の倫理化、子の言を藉つ

て言はゞ、矢張り三十年代の青年にあ

らざれば政治を口にするものではな

い、少年團長らしい政黨政治革新後援

運動の愚を笑ひ、新有権者——第二次

の新有権者たる者が、此種言動に惑は

ざらむことを祈る。

▽ △

聖上陛下御異例、赤子御平癒を祈つ

て已まざるに、神明の加護及ばざるか

葉山の天、雲低く國民皆憂に窺る。

皇后陛下、東宮兩殿下の御看護、聽

くだに涙ぐまれる教育勅語の表現、國

民皆範とすべし。

▽ △

本兩黨の提携に奔走す、倫理化の主張を必要とするに至つた理由、現在政治

の頭數的權力を排して、倫理道德の偉

力に依つて政治を行はむとするに在り

従つて現在政黨の頭數政治を封建政黨

であると言つた、其の言葉の持主であ

る子が、頭數を揃へる爲の政本提携に

盡す何と言つても倫理化運動の破産で

ある。

假令床次氏に頼まれたにしても奔走

したことは子の不覺であつた、或は既

▽ △

後藤子の奔走、随分會見に誤駄附い

たが、夫れでも協定委員の選出とまで

漕ぎつけた、政友會は來るべき議會に

政治の倫理化を高調した後藤子、政

攻守同盟し議會後は精神的に結合せむことを策す、本黨は兩者の主義政見の不一致を理由とし、朴烈問題、綱紀肅正、不景氣恢復の三問題に付提携を主張したが、結局所謂三問題に就て是が付く。

政友が攻守同盟を提言したのは本黨の誠意を疑つたもの、本黨が攻撃同盟を主張したのは近來の大出來、併しながら其の言ふ所の三問題、政府攻撃の材料として價値あるや疑はしい。

朴烈問題、いつも吾人が主張した如く政治問題と爲すべきでない、床次氏の如き政府の皇室に對する恐懼の觀念を疑はしむと言つてゐるが、不忠不義の言を弄して政府を糺弾するのは早計而も常軌を逸す。

綱紀の肅正、いつも聞慣れた問題、松

島事件を持ち出せば御互に疵が出る、若し夫れ首相の偽證事件に至つては論ずるに不足、久し振りに琴堂何をか感じけむ、總理大臣は須く一世の儀表たるべく、精神的傳染病者が輔弼の近側に在るは危険至極と言ふ、一方的に提起し得べき告訴に依つて斷ずるは、法治國民の言に非ず、琴堂老いたるか。

不景氣恢復、不景氣の原因と其の恢復の遅延を政府の責に歸せしめむとするもの、滑稽の沙汰と言ふべし、財界の現況は政變の影響を輕視してゐるではないか、政府の手に依つて財界を左右するものと觀るのは舊式政治家の偏見。

三問題、何れも内閣を攻撃するのに

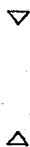
は餘りに貧弱在野兩黨に立派な政策の

無いことを現すもの、倒閣の爲の提携乃至は政府を脅威して解散回避の策を弄すと言はれても辯解の辭なかるべし併しながら之に依つて兩黨内の合同論者を一時的に鎮撫することが出来る

政友會は憲本提携の不可能を宣告せしめたことに成る、憲政會提携を輕視す固より當然、去年の秋の提携と同一に觀たのであらう、見越られたりや政本提携。

提携協定委員協約す、協定の内容と對議會策は秘密に附すと言ふ、固より三問題だけでは碌な相談も出來まい。天下に發表するだけの價値もない、有識者は聞こうともしない闇から闇へ取引するが可い、有權者不關焉、此くし

て既成政黨は有權者の監視界から遠ざかつて逝く、そして眞に政黨政治の改革と爲る。



政治的に策動することを許さざる貴族院の有志、覺書の流行を遂つた譯でもあるまいが又覺書を發表す、曰く、方今綱紀弛み道義衰へ國家の前途憂慮に不堪、故に須らく大局に鑑み慎重なる考慮を拂ふべきものと認むと、當然のことにして懇談の要と覺書發表の要を認めない。

唯だ何が故に此手段を採りたるかを疑ふ、政府を彈劾する意思に非ず、在野兩黨の爲に解散を防止する意圖に非ずと言ふに至つては更に怪。研究會の

領袖之に参加、否之を發起したること
に於て更に懷疑を深からしむ。

一大臣と四政務官を政府に据へてる
研究會、人閣は個人の資格として表面政府を糾弾す、是れ程世間を馬鹿にした言ひ分はない、内閣改造のとき何を策動したか回想するが可い、政權慾を満たすが爲に採つたあの暗中飛躍、

政府の有する責任は卿等の分擔に屬す
之を棚にあげて今在野二黨の爲に阿る道義の衰過せることはより甚しきはない、政府を叱責するよりは先づ卿等の
改心が肝要。

名目は何であらうと、貴族院の多數
黨と政府の絶縁、大きく言はゞ貴族院の政府に對する宣戰の布告である、貴族院一致の意見でないにしても政府苦

痛の種、併しながら之も政府があの貴族院改革のときに、もう一息の所で腰を折つた酬とも觀られる、あのとき世論に従つて改革の徹底を期したら、今日此事はなかつた筈。

在野兩黨提携し貴族亦其の專横を逞しうす、是こそ國家の前途憂慮に不堪政府は速に議會を解散して此醜狀を天下に問へ、之が眞の立憲的政治である。



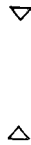
政府は鐵道の既定計畫を改定した、既定線に十七の新線を追加し、既定十五線の完成年度を繰上げ、四線の着手も亦之を繰上ぐと報ぜらる、解散を見越しての仕業ではなからうが、まだ新線十七を探索し得たことに敬意を表す

る、鐵道の經濟的價値を離れて鐵道策を按ず、惜むべし當局が眞の鐵道政策を持せざることを。

鐵道問題は政治問題に供せられ、黨略の手段として弄ばる、鐵道の國有の廢棄を論議する者出づ、其の可否は別としても、此醜狀を觀ては當然起るべき聲である。此改定に依つて明年度以降の建設費五億四千萬圓、改良費と合せて十三億一千萬圓、無謀と言ふべきか無智と稱すべきか、之を評するに言葉がない。

片岡藏相、公債償還額増加に鼻を高くしてゐても、鐵道公債の増加に依つて其の目的を裏切られた、之でも公債政策に成効したものと云ふか、財務の局に在る事務官某、いかに事務官と雖

政務官の言ふ通りに爲るものでないと憤慨したとか、吾人之を耳にして意を強くし。此硬骨あるが爲に財政政策の妥當を期待したのであつたが、今鐵道改定案を觀、財務當局の健在を疑ふ。



鐵道改定案に胚胎して、閣議に道路網の確定が問題と爲つたと傳ふ、道路問題を議した内閣は未だ曾て之を聞かない、現内閣の賢明を喜ぶ、併しながら之を議するの遅かつたことを惜む、内務當局は鐵道に代る自動車道路助勢案を提出したではなかつたか、今頃に道路網の確定でもあるまい。

鐵道の敷設には經濟上の採算を必要とし。採算不可能な地方には之に代る

べき道路を改良するのが得策であるは、吾人年來の主張、國鐵の幹線大體完了の今日、鐵道案を廢棄して道路改良計畫を樹立するのが急務、今之に氣附いたのが幸、併しながら夫れを計畫するのは黨勢の擴張とは爲らぬ。そこに政黨生活の生くる爲の惱がある、眞に國民生活の安定を期せむとせば、地方開發道路助勢案を實現せよ。

自動車道法案を今期議會に提出すと、既存道路では自動車の機能を發揮せしむることが出來ない。故に専ら自動車の通行する道路を設くることを許す法案である、之に依つて愈々自動車が鐵道に拮抗す、鐵道を需用家の店舗前に敷設したやうなことに爲る。

此くして從來の鐵道や軌道が地方交

通機關の範圍から驅逐され、地方交通は自動車が獨占することゝ爲る。鐵軌經營者が如何に既存の權利を主張しても、時代の進展は如何ともする不能。

法案は自動車道の開設に對して補助政策を採る、一般道路に代るべき道路として、道路管理者が補助するのである、百年河清を待つやうな鐵道の敷設に投ずる運動費を自動車道路開設に投ぜよ、夫れが地方開發の最善策。

例の乗合自動車も亦此法に吸收さると、交通機關統一上當然のこと、誰か其處分に付乗合自動車の統一に反對した地方長官がある筈、併しながら眞理はいつか達せらる、固有の權限を維持することが官吏の能でない、眼を天下の大勢に移せ、權限などとはケチ臭い。

無意義な地方長官の反對を排し、我が陸運否路政の爲に、理想に慕進する内務省——次田土木局長に深甚の敬意を表し其の健在を祈る。



東京市、職制を改革して道路局を廢し、土木局を興し道路河港下水の事を管掌せしむ、唯だ惜しむ軌道と水道の建設維持を落したことを、併しながら下水の工事と、道路工事が統一して出來ることに爲つたゞけ、有意義の改革であつた、市長に言ふ、此次の改革には縦斷的の職制改正を忘れざる事を。

西久保市長、市電爭議に直面し、現業員が其の勞働を捨て、も市民に迷惑をかけぬと言ふ、此壯語、西久保氏に

して始めて發することを得べし、遂に爭議は解決した、世人之を英雄的解決法と言ふ、併しながらいつも此手で勞働問題は解決すべきものでない、更に來るべき爭議に備ふること肝要。

市會議員、爭議に原因して電車の運轉を稽古すと、賣名の徒、電車運轉を學ぶ誠意あらば、市政の議事に眞面目であれ、聞くも汚らはしい、市政を弄び、モーニングを着て電車を運轉せむとす、兒戯に等し。併しながら君等の能力は夫れ位の仕事が適當かも判らない、夫れならば市議を辭して其れに專らなれ、歳費の低減。之も君等の柄でない、歳費は増額しても可い、物品や材料の購入に商人の周旋業を罷めよ、夫れが市政否市民に忠實なる所以。